

## 入選

### 「親切」に壁はない

静岡県 浜松西高等学校中等部

3年 中川 はるか

「困っている人がいたら、助ける。」

私は小さい頃から、家庭でも学校でもそう教わってきた。そして、それは当たり前にする事で、当たり前前に受け入れられるものだと思っていた。

ある日、私が電車に乗っていると、外国の女性が二人乗ってきた。そのうち一人は具合が悪そうで、もう一人に背中をさすられながら、うつむいていた。車内の席が空いていなかったの、私は立ち上がり、

「良かったら、座ってください。」

と、話しかけた。けれど、二人とも日本語がわからなかったのか、戸惑った表情をし、席に座ることはなかった。私は、

「言葉が通じなかったのかな。迷惑だったのかもしれない。」

と、不安に思った。誰かのためを思ってした行動が、受け入れられないこともあることを体験した。それから、困っていきそうな外国の方を見かけても、話しかけようか迷ったり、話しかけられて言葉がわからなかったらどうしよう、と思うようになった。

けれどその後、その考えが変わるできごとがあった。学校からの帰宅途中、駅で外国の方から話しかけられた。彼女は片言の日本語で、

「〇〇駅に行きたいです。どの電車に乗りますか。」

と言った。難しい日本語が伝わらなかったら、と不安に思った私は、英語で答え案内した。

ホームに着くと、彼女はお礼を言って頭を下げた。それから英語で、

「お互いの国の言葉で話しているのが、おもしろい。あなたのような日本人に会えて、嬉しい。」

と笑ってくれた。私はとても嬉しくなり、

「お互いに言葉が伝わるか不安でしたが、役に立てて良かったです。」

と答えると、彼女は驚いた顔をした。そして、

「人を助けるのに、言語は問題じゃない。あなたは、あなたの行動に誇りを持って。」

と、優しく肩を叩いてくれた。

私は、彼女のこのささいな言葉に感動した。「親切」に壁はない。国も言語も関係なく、誰かを助けたいという気持ちは、間違いではないし、届くものだ。名前も国籍も知らない彼女から、そう学んだ。前回のようにうまくいかないこともあるかもしれないけれど、私は私の行動に自信を持ちたい、と思った。

これからも、困っている人がいたら、まっすぐ行動できるようにしたい。